

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 29103：環境研究総合推進費の一部(気候変動に対応した生物多様性保全技術の確立と全国適用)(環境省)】

【施策番号 29105：里地里山保全活用行動推進事業(環境省)】

- 1 日時：平成22年9月10日(金) 11:30~12:00
- 2 場所：内閣府(合同庁舎4号館)共用第3特別会議室
- 3 聴取者：総合科学技術会議有識者議員 相澤議員、白石議員、奥村議員、
今榮議員
外部専門家 7名(うち若手2名)
内閣府 岩瀬審議官、大石審議官、廣木参事官、村上参事官
- 4 説明者：環境省 総合環境政策局 総務課 環境研究技術室 秦室長
地球環境局 総務課 研究調査室 松澤室長
自然環境局 自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画
室 川越室長補佐
自然環境計画課 奥山課長補佐

5 施策概要

(29103 環境研究総合推進費の一部(気候変動に対応した生物多様性保全技術の確立と全国適用))

政府全体における研究・技術開発の重点2本柱の一つである「グリーン・イノベーション」を推進する一環として、研究・技術開発の成果を社会に「適用」してイノベーションにつなげていく研究開発(生物多様性確保のための研究)を強化・推進していく。

(29105 里地里山保全活用行動推進事業)

以下の事業を実施することにより里地里山の保全・活用を推進する。

(1) 全国の里地里山保全活動への支援、(2) 技術的方策、モデル事例集の充実、発信、(3) 多様な主体の参加促進方策の検討、(4) 自然資源の利活用方策の検討、(5) 典型的な里地里山の選定等、保全活用の推進効果の検討

6 質疑応答模様

【相澤議員】

生物多様性条約に対する新戦略計画のもとで施策を進める趣旨は分かる。20の個別目標に対して、具体的にどのような予算の付いた施策を展開するのか。

【環境省】

主なものとしては、新戦略計画に対応した生物多様性国家戦略の見直しに 4 千万円、生物多様性保全のための資金メカニズムや遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）等の主要課題の検討に 1 億円程度、途上国のキャパシティ・ビルディングのための日本基金に約 10 億円などを要求している。

【相澤議員】

これだけ大きな目標を定めつつ推進するには、予算規模が極めて小さいように思う。その中から考えると、今回の 2 施策合計約 6 億円は大きいですが、全体的な取り組みとしては極めて消極的に映る。省内ではどのように位置づけられているのか。

【環境省】

他にも国立公園の指定推進のための予算など、関連するものを束ねると増える。生物多様性は地球温暖化と並んで、環境省の重点の一つの柱として位置づけられている。

【相澤議員】

この生物多様性は、グリーン・イノベーションの中での位置づけが大変難しい状況にある。重要性はわかるが、イノベーションを目指した施策群としての説得力が必要。モデルや評価の技術だけでなく、滅失を止めて予測される減衰曲線を上向きにすることを前面に打ち出して、そのために必要な研究だという構図にすべきである。その具体化が弱い。

【環境省】

前回のヒアリングでは、ライチョウや高山植物の保全に関する具体策の例を説明した。地域に与える影響の予測、問題の把握、具体的な絶滅回避方策をセットで、本施策で考えていく。さらに地域での実証を通じて手法を確立し、全国に適用していく。里地里山の施策でも同様である。

【相澤議員】

その部分の説明が読み取りにくい。明確にした追加資料を出してほしい。適応策にも関係する施策として、カタストロフィックな状況を上向きにして新成長戦略の成長に近づけるというコンセプトで、イノベーションの中でも極めて重要な位置づけであることを認識願いたい。

【環境省】

資料は追加提出する。絶滅危惧種の中には重要な漁獲対象種もあるほか、生態系サービスの減少を食い止めることも大きな経済的損失の回避になるので、そういった点を含めて対策を進めていく。

【奥村議員】

以前のヒアリングではレッドリスト上の新たな生物種の絶滅をゼロにするという分かりやすい目標があったが、今回の様式資料では目標が抽象的である。競争的資金については特に研究開発目標をきっちと書かなければならない。

【環境省】

資料の6ページが競争的資金の施策の説明である。これについては我々からトップダウン的に政策課題を明示して進める。目標については、6ページの右端に絶滅ゼロと明示している。様式の方も修正する。

【外部専門家】

社会インフラのグリーン化という位置づけなので、森林、里地里山、都市内の緑地も含めて、保全だけでなく、恩恵の活用も打ち出すべきではないか。

【環境省】

都市周辺の緑地では、里地里山での技術を活用できる。保全しながらの利用も、里地里山の事業で一番念頭に置いている。二次的自然の生態系管理で出てくるものをバイオマス資源として有効利用し、保全と持続可能な利用の両立を図る。

【外部専門家】

技術開発は重要だが、持続的にやっていくには人の問題が大きい、どう考えるか。

【環境省】

里地里山事業では、技術開発以外に、都市との連携、研修会、カーボンオフセット等、社会的なシステムとしての展開を積極的に進めていきたい。

以上